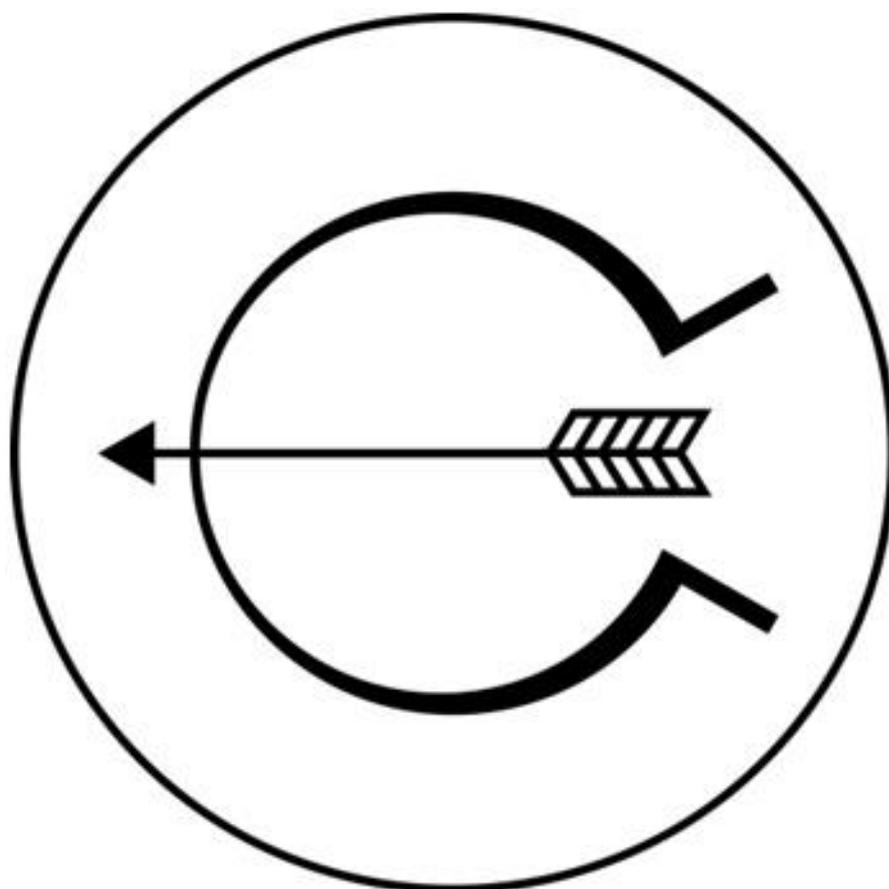


第 48 回学生弓道合同研修会

議事録



2022年12月11日 実施

12月27日 公開

東京都学生弓道連盟

10:00 研修会開始

○諸注意説明

○開会挨拶

○出席者・定足数の確認

南嶋 「 規約第 18 条の定足数により、研修会は加盟校の三分の二以上の出席又は委任状の提出がなければ開催できませんが、目測で 36 大学以上が出席していますので本総会は正常に開催できるものとします。

議決権は各大学一票のみとなるので、出席者のなかで代表して挙手をしてください。議決は過半数、規約改正は三分の二以上をもって成立します。」

○会議次第について説明

○リーグ戦表彰式（読み上げのみ、酒井）

○講評（東京都学生弓道連盟副会長 早稲田大学 OB 米田文彦先生）

米田副会長 「 こういう風に都学連の各大学の全員が集まるのは 8 月の総会とこの研修会くらいです。最近ではコロナで対面での会を開くことができず引き継がれていないものがたくさんあると思います。この会議を有意義に使ってください。」

○2023 年都学主催行事予定に関して

・新人戦、女子部新人戦

南嶋 「 新人戦、女子部新人戦に関して、トーナメント抽選会は 2/18（土）にオンライン開催します。その後、一・二回戦を 3/4（土）と 3/5（日）、三・四回戦を 3/11（土）と 3/12（日）、出場チーム数の関係で四回戦がない場合は空き日とします。また、一から四回戦まではオンライン開催を予定しています。準決勝は 3/18(土)対面開催、決勝・三位決定戦は 3/19(日)対面開催とします。」

・百射会、女子部記録会

南嶋 「 百射会・女子部記録会の日程は第一候補が 4/29（土）と 4/30（日）、第二候補が 5/6（土）と 5/7（日）となっております。対面開催を予定しており、観客制限については検討中です。」

・全関東学生弓道選手権大会

南嶋 「 全関東学生弓道選手権大会について、団体個人予選は男子が 5/13（土）、女子が 5/14（日）オンライン、決勝が男子 6/10（土）と女子 6/11（日）日本武道館にて対面開催となっております。観客と矢声はありで検討中です。ただし、情勢により変わる可能性があります。」

○2023 年全日主催行事予定に関して（全日本学生弓道連盟執行委員長 井上由一郎）

井上 「 全日学連からのお知らせです。この会議は YouTube で発信する予定です。本日の内容は事業報告、事業計画、全日学連からのお知らせの三点です。」

・事業報告：伊勢大会（2022 年度開催）

井上 「 11/24 から 11/27 に実施された伊勢大会に関して、詳細はスライドをご覧ください。法政大学と東軍、おめでとうございます。都学の皆さまも運営へのご協力ありがとうございました。」

・事業計画：選抜大会

井上 「 来年度の選抜については 6/24（土）と 6/25（日）に明治神宮弓道場で実施します。34 回大会以降全日本学生弓道連盟と全日本弓道連盟の共同主催ですが、運営は全日本学生弓道連盟が担当します。選手登録や大会詳細は全日学連のホームページを参照してください。

都学の加盟校の皆様には的回収と手伝い役員派遣のお願いを後日お知らせします。ご協力をお願いいたします。なお、選抜大会出場条件は前年度のリーグ戦的中率上位 10 校です。」

・事業計画：全日本学生弓道選手権大会（インカレ）

井上 「 インカレ個人予選についてはコロナの感染拡大の有無に関わらずオンラインで 7/1（土）と 7/2（日）に全国一斉で実施していただきます。この日程よりも前に実施日設定も可能ですが、公平性の観点から全国一律開催が望ましいのでこの日程で行うようにお願いします。

インカレ本選について近的は神戸グリーンアリーナ、遠的はその隣の球技場で行う予定です。

日程は 8 月中旬予定ですが、2022 インカレの 8 月 10 日～13 日という日程より後ろ倒しになる可能性があるので注意してください。各大学合宿等の日程は可能な限り後ろにするほうが望ましいです。来年の一月ごろには日程を確定できる見込みですので、詳細については確定次第連絡します。」

・全日学連からのお知らせ

井上 「 部員登録について、登録情報が間違っているケースがあります。全日本学生弓道連盟のホームページを確認の上、間違いがあった場合は加盟校自身で訂正できます。代替わりの時期でもありますので、今一度ご確認のほどお願いいたします。部員登録のページにログインし、変更して

ください。また、部員登録の抹消は2月から4月の間は不可なので注意してください。その期間は退部の扱いにすることはできますが、抹消はできません。

都学加盟校のうち全日の連盟費を支払っていない大学はお茶の水女子大学、専修大学、東京経済大学です。早急にお支払いください。都学と全日は担当者が別なので注意してください。メールアドレスは3つあります。部員登録と選手登録についての問い合わせは、zennichi.kyudo@gmail.com、選抜・インカレ・伊勢など全日主催の大会参加費等会計については zennichi.kaikei.00@gmail.com まで連絡してください。これ以外の連絡については zennichi.kyudo.gkr@gmail.com の委員長直通アドレスまでお願いいたします。部員登録に関する問い合わせが委員長直通アドレスにくるケースがよくあるので注意してください。

全日本学生弓道連盟のホームページとツイッターにこちら（スライド参照）のQRコードから入ることができます。ツイッターには重要な情報が流れますのでフォローをお願いします。ホームページには大会の情報が流れますので適宜ご確認をお願いします。特に大会直前は頻繁に更新しております。」

・質問（慶應義塾大学 宮脇さん）

宮脇 「東京都学生弓道連盟の事業計画について3点質問があります。トーナメント抽選会は2/18（日）となっていますが、カレンダーを見ると土曜日となっていますがいかがでしょうか。」

南嶋 「正しくは土曜日です。失礼いたしました。」

宮脇 「新人戦の一回戦から四回戦まではオンラインと仰っていましたが、資料では対面となっています。どちらでしょうか。」

南嶋 「正しくはオンラインです。リーグ戦を踏まえての判断で、また対面に移行するのは負担かと思いますのでオンラインという形を取らせていただきました。」

宮脇 「4/29（土）と4/30（日）はどちらが百射会でどちらが記録会でしょうか。」

南嶋 「明治神宮と確認いたします。例年女子部記録会のほうが先に来ているのでおそらく資料の間違いかとは思いますが、確認の上後日訂正いたします。議事録と決定事項を後日公開しますのでそちらをご覧ください」

※お詫びと訂正

・第一希望：女子部記録会4月29日（土）、百射会4月30日（日）

・第二希望：女子部記録会5月6日（土）、百射会5月7日（日）

で申請しております。

○ブロック分け抽選会

南嶋 「 同じリーグ内で複数のブロックが存在する箇所があるためこのようなブロック分け抽選会を行います。その分け方については前方に集まっています。いただき、「矢振りにより分ける」方法を取らせて頂きます。それでは男子から始めます。マイクで招集しますので女子の方も適宜放送をお聞きください。今から 12 時 00 分ごろまで時間をあてます。招集されているとき以外の時間は各大学の交流の場としてお使いください。今年のリーグ戦が終わったあとの編成表がこちらになります。（スライド参照）間違いのないということで、ブロック分け抽選会を行います。」

（順次、ブロック分け抽選会を実施）

10:47	男子Ⅲ部ブロック分け抽選会
11:03	男子Ⅳ部ブロック分け抽選会
11:10	男子Ⅴ部ブロック分け抽選会
11:20	女子Ⅱ部ブロック分け抽選会
11:29	女子Ⅲ部ブロック分け抽選会
11:37	女子Ⅳ部ブロック分け抽選会
11:44	女子Ⅴ部ブロック分け抽選会

南嶋 「 ブロック分け抽選会終了しました。結果がこちらです（次頁参照）。間違い、ご質問があれば休憩中にお申し付けください。ただいまの時間より 13：15 まで昼休憩とします。13：20 から午後の部を開始とし、それまで一旦解散とさせていただきます。」

69期リーグ編成表

【ブロック分け後】

		I		法政大学					
				桜美林大学					
				日本大学					
				早稲田大学					
				明治大学					
				II		中央大学			
						慶應義塾大学			
						専修大学			
						國學院大學			
						東京大学			
III A		東京工業大学		III B		東洋大学			
		立教大学				日本体育大学			
		東京都立大学				東京農業大学			
		東京農工大学				帝京大学			
		上智大学				明治学院大学			
IV A		IV B		立正大学		IV C		一橋大学	
				玉川大学				東京理科大学	
				明星大学				学習院大学	
				東京都市大学				駒澤大学	
				東京外国語大学				成蹊大学	
V A		V B		東京学芸大学		V C		創価大学	
				国士館大学				武蔵大学	
				成城大学				高千穂大学	
				東京電機大学				東京工科大学	
				亜細亜大学				日本文化大学	

69期女子部リーグ編成表

【ブロック分け後】

			I	桜美林大学 明治大学 日本大学 専修大学 早稲田大学	
	II A	中央大学 東京農業大学 慶應義塾大学 日本女子体育大学 東京大学	II B	法政大学 立教大学 東洋大学 東京都立大学 東京外国語大学	
III A	日本体育大学 立正大学 帝京大学 東京薬科大学 工学院大学	III B	國學院大學 創価大学 一橋大学 上智大学 東京理科大学	III C	青山学院大学 東京工業大学 学習院大学 明星大学 成蹊大学
IV A	東京医科歯科大学 学習院女子大学 大正大学 電気通信大学 東京都市大学	IV B	東京農工大学 国士館大学 玉川大学 成城大学 日本女子大学	IV C	明治学院大学 東京海洋大学 東京学芸大学 武蔵大学 駒澤大学
	VA	お茶の水女子大学 二松学舎大学 日本文化大学 東京経済大学	VB	芝浦工業大学 亜細亜大学 東京工科大学 高千穂大学	

13:19 全体討論会第 I 部

南嶋 「主に規約関連から進めさせていただきます。」

○議題① 木島陽子氏の連盟副会長への推薦に関して

南嶋 「木島さんの連盟副会長への承認について、規約 9 条による議決をとります。なお過半数の承認で可決されます。議決をとる前に木島さんより自己紹介を頂きます。」

木島氏 「日本大学弓道部に 4 年間所属、その後は地元で少し弓道をしていました。現在は弓道関連に携わっていないのですが立候補いたしました。還暦を過ぎました。以上で自己紹介とさせていただきます。」

南嶋 「女子東西に 4 年連続最優秀賞、インカレ団体優勝 2 回、女子部記録会優勝などの輝かしい実績をお持ちでいらっしゃることから、立候補をしていただきました。木島さんの副会長への承認議決は 2 分程お時間をとったのちとらせていただきます。」

南嶋 「2 分ほど経ちましたので議決をとります。賛成の方は挙手をお願いいたします。只今役員が数を数えますので手を挙げたままお待ちください。」

「ありがとうございます。出席者の全員の賛成を得られましたので、木島氏を副会長とさせていただきます。」

○議題② 条文内の参照条項の修正に関して

南嶋 「参照している条文の修正となります。前回の規約改正で条文がずれたが、参照条文はそのままとなり結果的に誤った参照となってしまうため、ここで修正させていただきます。単純に何を指しているかを変えることとなります。こちらに関しては時間を取らず只今より議決をとります。」

「確認の結果、全会一致となりましたので参照条文を変更させていただきます。」

○議題③ 規約 28 条における処分内容の拡充に関して

南嶋 「規約 28 条の処分内容の拡張となります。処罰対象となった事例において中には他と比べて事の重大性が高いものがいくつかありました。しかし、今のままだと量刑の余地がなく、一様の処分となり、事案の重大性に応じた処分の決定、すなわち量刑を行うことが不可能となっております。つきましては、罰金額に幅を設け、事の重大さを測れるように改正したいと考えています。

それぞれの事情などを勘案した上でないと量刑を示すことができないという背景から現時点で具体例等を提示することはできませんが、情状酌量の余地などの配慮はあると考えていただいて結構です。こちらに関しては 2 分ほど意見をまとめる時間を設けます。」

・質問（上智大学 山口さん）

山口 「金額の判断の主体、プロセスについて疑問に思います。開かれた過程でないと恣意的な判断がなされてしまう可能性があると思う。」

南嶋 「もちろんそのようなことは致しませんが、仰ることが起きる可能性自体はあるかと思えます。防止策として、例えば関西学連では研修会などの開かれた場での話し合いが設けられた上で量刑を判断しているため、都学でもそのような過程を通した処分内容の確定を実施することを検討致します。」

南嶋 「それでは、議決を執り行います。」

「賛成 49・反対 2 で 3 分の 2 以上の賛成の為、可決されました。」

○議題④ リーグ戦・女子部リーグ戦の開催期間に関して

南嶋 「リーグ戦・女子部リーグ戦の開催期間について、一律男女一緒とさせていただいていたが、解釈の余地がある表現となってしまいました。提案内容は議題詳細に掲載しています。読み方によっては、男子が一日遅く、女子が一日早く終わると解釈できます。役員といたしましては、男女一緒と捉えていましたが、規約改正により男女共通開催期間と明文化したうえで男女のリーグ戦の開催期間を同一のものと捉えられるようにします。2 分ほどお時間を取ります。」

南嶋 「補足として、こちらの図は入替戦まで試合がある方を指しているものとなりますが、入替戦などがない学校に関しても、開催期間としては全大学男女共通という認識を持っていただくということになります。質問

など無ければ採決にうつります。解釈の余地がある条文の改正が提案内容となります。それでは議決を執り行います。賛成の方挙手をお願いいたします。」

「集計の結果、全会一致で可決となりました。ありがとうございます。」

○議題⑤ リーグ戦期間中練習試合の実施制限に関して

南嶋 「 リーグ戦期間中の練習試合実施制限について、現行規約において一部制限を設けております。コロナ禍前の規約で、リーグで使う道場にリーグ戦1週間前に使用することは公平性に欠けるという点で制限していたが、今後対面試合が増えることを踏まえて周知を図りたいと思います。また、この試合は申請がなかったと思われる試合もいくつかありました。現状としては、順位決定戦なのか入替戦なのかなどの区分によって、規準が異なるという問題があるため、一度修正を図りたいというのが提案内容です。改正後の案としては、把握のため学連側への報告をお願いしたいというものになります。対面試合を想定した条項であるためオンライン開催について事前の申請が必要かという点については、不公平さに焦点を当てて考慮した問題であるため、申請は不要ではないかと思われるかもしれないが、オンライン試合も対面同様報告を必要とするか、はたまた不必要かという点も併せて議論をしていただきたいと思います。今から5分ほどお時間を取ります。」

・質問（東京大学 児島さん）

児島 「 順位決定戦の週におけるとあるが、入替戦の時期に関しても全面禁止なのか？」

南嶋 「 別の事情も絡む話ではありますが、対面でリーグ入替戦の期間中に練習試合を組んだということは、貸出可能な道場があったというふうに考えることができってしまうため、一度学連側にご相談いただきたいと思います。第一週から第五週に関しては、完全に対面でリーグ戦を行えるようになった場合、できる限り多くの道場が必要となる為、禁止とさせていただいています。また、期間的に練習試合を組むこと自体難しいのではないかと考えております。」

・質問（慶應義塾大学 平井さん）

平井 「 順位決定戦前の予備週における練習試合は禁止という認識でよろしいでしょうか。」

南嶋 「 その道場を使ったことがあるのかないのかという点が問題となるので、事前に申告をお願いしたいです。」

平井 「 では予備週に練習試合を行うことは可能という認識でよろしいでしょうか。」

南嶋 「 予備週や空き週も含めて原則禁止とさせていただいています
が、順位決定戦に向けた練習試合を認めるかという点に関しては、許可できなくはないと思います。そうすると今の提案は変える必要性が出てきますので一度持ち帰りたいと思います。お聞きしたいのですが、予備週や空き週に練習試合を組まれるところがありますか？」

（挙手にて、数校確認）

「 その道場を使ったことがあるかないかという点を学連としては知りたいところであり、この質問は現在議題詳細に掲載されている提案とは若干異なってしまうため、この話題に関しては持ち帰らせていただきます。また議題自体に関しても少々考え直したいところが出ましたので持ち帰らせていただきます。話し合っていたいたにもかかわらず申し訳ありません。」

○議題⑥ 百射会・女子部記録会の優勝基準の明瞭化に関して

南嶋 「百射会女子部記録会の優勝決定基準について、現行規約も変更後も意味していることは同じですが、現行規約の条文に解釈の余地があるため条文の明確化を図りたいです。同中において連中数で勝敗を決めることが規約では定められています。連中数が同じ場合はその連中数を早く達成した人が勝ちとなります。どちらも99中だった場合、72連中のA選手と51連中のB選手では連中数の多いA選手の勝ちとなります。また、初矢を抜いた99連中と止矢を抜いた99連中では、先に99連中を達成した、つまりトメ矢を抜いた99連中が勝ちとなるということです。競射とは何なのかという点を明記していないこともこの条文の問題点です。改正後は射詰競射と明文化いたします。提案内容としては、元の文章をあまり変えないようにしていますが、改正後の条文の方が役員としても分かりやすいと考えております。ではお時間を取ります。

もう一度説明したうえで採決いたします。書いてある内容は現行規約も変更後も同じです。同じ99中でも72連中と51連中であつたら72連中した方の勝ち、初矢を抜いた99連中と止矢を抜いた99連中であれば止矢を抜いた99連中した方の勝ち、連中数も的中数も同じ場合は射詰競射にて決定する。条文改正に賛成の方挙手お願いいたします。」

「確認の結果、全会一致で可決となりました。」

○議題⑦ 百射会・女子部記録会の出場可能人数制限の緩和に関して

南嶋 「百射会女子部記録会の出場可能人数について、競技性の向上や各大学の出場機会を増やすことを目的として緩和を考えております。現行規約によると各大学1名+余りがあれば1名追加でき最大2名出場できます。変更後は各大学1名+余りがあれば2名追加できるとし、一校につき最大3名出場できるよう、変更したく思います。補足として、枠数を増やすという訳ではなく、あくまでも枠が余った場合の話ということになります。」

・質問（東京大学 児島さん）

児島 「枠が10枠余ったとして、前年度の優勝校から2人ずつ出したら5校で10名出すことになるかと思いますが、どのような過程で決まりますか。」

南嶋 「枠数を72名とし、50人が応募したとする。残りが22枠となり、各大学2人目を募集する。その際は前年度の結果から各大学1人ずつ出し、それでも枠が余った場合3巡目の募集となる。よって、質問の場合だと10大学から各1名の選出となります。」

・質問（法政大学 佐々木さん）

佐々木 「本学には優勝者も準優勝者もいますが、同じ大学から3人目ができるという形でよろしいでしょうか。」

南嶋 「高い方の順位の方を参照します。質問の場合は優勝者の枠を一つ持っているということになります。各大学の最も成績のよかった選手の順位が適用されます。」

・質問（上智大学 山田さん）

山田 「解釈に幅があると思うのですが、条文の工夫は検討されませんか？条文は長くなってしまうと思うが段階ごとに条文を明記した方がいいのではないのでしょうか。」

南嶋 「ご意見ありがとうございます。条文に関してはより分かりやすくしたものを別途提示させていただきます。規約改正後も解釈の余地があることを考え、今の段階では議決がとれないと判断いたしました。改正後の条文の不十分さをご指摘いただきましたので、議決の取り方を変えます。改正の賛成反対の採決のうち、反対多数となった場合、増員の方針について賛成反対の採決をします。この議題が否決された場合は、再来年を目途に増員の方向で動くことについての是非を問いたいと思います。まず、規約改正に賛成の方举手願います。3分の2の賛成で可決となります。」

「 集計の結果、賛成 25 反対 26 で規約改正は否決となりました。続いて出場可能人数の増員という方針自体には賛成の方挙手お願いいたします。こちらは過半数の賛成で可決となります。」

「 集計の結果、賛成 49 反対 2 となりましたので、臨時総会もしくは定時総会にて新しい条文を提示する形で増員の方向で検討致します。」

「それではただいまより 14:45 まで、一時休憩といたします。」

14:45 全体討論会第Ⅱ部

○議題⑧ 女子部記録会の競技形式の変更に関して

南嶋 「 女子部記録会の競技形式について、現状女子部記録会は 40 本と男女間で二倍以上の明確な差があることに関する問題提起があります。この件に限らず男女間の格差についてブロックでの討論会も行います。これを踏まえて聞いていただけたらと思います。」

伊藤朱 「 こんにちは。東京都学生弓道連盟 女子部委員長の伊藤です。本日はよろしくお祈いします。女子部記録会 競技本数について様々な観点からお話できればと思います。今回の表題に関しては上から、

- ・ 事前知識としてジェンダーに関して
- ・ 今回の議題である記録会に関して
- ・ 事前アンケート調査に基づいた記録会適正競技本数に関して
- ・ 競技本数変更時の運営における実現可能に関して
- ・ 今回の議題に関して

となっております。まずは、現代弓道におけるジェンダーに関して触れたいと思います。本題に入る前に、近頃は、政治や家庭内でのジェンダーギャップの認識について、広く浸透しつつあります。様々な分野で男女差別が撤廃される中、他の分野に比べて問題の解決が遅れているのがスポーツです。それには身体的な理由から文化的な理由まで様々な問題が絡んでいます。『男性の方が女性より体力がある』そのようなことを背景に、スポーツ界では男性優位で考えられています。その中でも、世界的にはスポーツにおけるジェンダーギャップを小さくする動きが増えています。世界的なスポーツ社会における男女競技規格の動きとしてこのような例を二つ挙げております。IOC から、2030 年までにジェンダー平等を達成するロードマップを発表していることと、2020 年の東京オリンピックにおいて、出場選手の女子比率が、前回、58 年前の 1964 年開催の東京オリンピックと比べて 3 割強増えているという事です。このようにオリンピックが絡む世界規模でスポーツにおけるジェンダー平等は実現に向かっていきます。つづいて弓道におけるジェンダーについて説明

します。まず、大学弓道における公式試合の男女差に着目すると、百射会・女子部記録会にて男子 100 射、女子 40 射、全関東学生弓道選手権にて男子 1 チーム 6 人立ち、女子 1 チーム 3 人立ちリーグ戦、女子部リーグ戦にて男子 1 大学 8 人立ち、女子 1 大学 4 人立ち、新人戦、女子部新人戦にて男子 1 大学 6 人立ち、女子 1 大学 4 人立ちとなっております。一方、高校・一般弓道における公式試合につきましては、射数及び立ち人数においても男女差はありませんでした。これより、現代弓道公式試合において明確なジェンダーギャップがあるのは大学弓道のみで、私たち大学弓道ではジェンダー平等に沿わない試合方式をとっている事がわかります。内閣府が掲げている女性差別撤廃条約にもあるように『スポーツおよび体育に積極的に参加する同一の機会』を実現すべく、今現在、百射会・女子部記録会という男女同一形式で行われる大会での射数 60 本の差は、果たして適切であるのかを考えていきたいと思えます。

では百射会・女子部記録会の概要について少し触れたいと思えます。こちらは（スライド参照）昨年度の百射会・女子部記録会の大会表彰結果になります。表彰結果から百射会で表彰される射数差を見てみると、優勝者と第 10 位で 16 中差、女子部記録会で表彰される射数差は、優勝者と第 5 位で 3 中差となっております。百射会の優勝・準優勝の的中差と女子部記録会の優勝から第 5 位までの的中差が同じであることや、女子部記録会の入賞者の中数にほとんど差がないことから、百射会と比べて、従来の女子部記録会では、入賞者において同中者が多くなり、順位をつけづらくなっております。

また、従来の女子部記録会が 40 射である理由については、60 年前、設定当時の女子競技人口や規模が小さかった時代背景によるものと推測しております。実際、女子部記録会歴代優勝者の記録を見ると、第 1 回から第 15 回の結果は、平均 30.53 中であるのに対し、第 45 回から第 60 回の結果は、平均 36.2 中と、設定当時と比べて競技レベルはかなり高くなっております。また、部員登録数を見ても、女子の競技人口増加により、都学は男女差約 100 人とほとんど見受けられないと考えられます。続いて加盟校アンケートに基づいた記録会適正競技本数について話していきます。こちらが加盟校所属の全女子部員を対象に女子部記録会で適正だと思える競技本数についてアンケートを行った調査結果となっております。お手元の資料も併せてご覧ください。

期限が短いにも関わらず、100 件を超える回答を頂き、加盟校の皆様には、アンケートにご協力いただいたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。40 射以下、60 射以上で分けると、40 射以下は 32.1%、60

射以上は 67.9%となっております。60 射単体だと 38.8%となっております。こちらは記録会参加経験者のアンケート回答結果で、40 射以下は 35.5%、60 射以上は 64.5%となっております。60 射単体だと 38.5%となっております。以上より、回答数 134 件と分析するに十分な回答件数であること、また全体の回答結果と、経験者のみの結果どちらも同じような回答傾向にあることから、本アンケート結果を、都学加盟校女子部員による適正競技本数アンケート結果として、有効であるといえます。次に本数毎の適正だと考える理由についてアンケート結果をまとめました。（スライド参照）」

「 以上、アンケート結果のまとめでした。

結果より 60 射以上を適正と考える回答が多かったため、続いて競技本数変更時の運営上実現可能性についてお話させていただきます。学連役員を対象に加盟校向けアンケート同様のアンケート調査を行いました。回答数は 14 件で、役員の半数以上の回答を得ました。結果適正本数 60 射が 78.6%、80 射が 8.1%、100 射が 14.3%となっております。次に本数毎の適正だと考える理由について以下の通りとなっております。60 射を適正競技本数と考える理由として、全体的に、現在の 40 射であることに否定的な意見が多く挙げられました。その上で、男子の百射会にて、体力的問題で途中退場者が複数人出ている事からも、女子の体力的な面を考慮し、60 射が体力的に適正ではないかという意見が多くありました。100 射を適正競技本数と考える理由として、（以下割愛、スライド参照）これらを踏まえて、競技本数変更時の運営上実現可能に関して初運用時、一度に 40 射から 80, 100 射に増やすことにはタイムスケジュール上不透明な点が多いため現在の 40 射から 60 射に変更することと、現在 72 名の参加人数からある程度(たとえば 1 立分)減らすことで従来通り運営可能で現実的であるタイムテーブルを組む事ができる。ただし、役員視点からの運営上懸念点は存在します。立ち数が増える事での替えの回数が増えることや、矢数をかける毎に、選手の体力的な問題で立ちの時間が伸びてタイムテーブルに遅延が発生する事で、大会運営を最後まで実現できない可能性があることが挙げられます。大変長くなりましたが、以上の説明を踏まえ、今回の議題についてご説明させていただきます。（スライド参照）」

南嶋 「こちらについて、記録会のみならず競技について差は多々見られるが、必ずしもどちらかにしないといけないという訳ではなく方針としてどのように思っているのかを知りたいということです。その上で、具体的な道のりを考えたいと思っています。この後全関東の話も出てきますので、その時に話を戻します。」

○議題⑨『対面試合マニュアル（仮称）』に関して

南嶋 「男子のものと女子のもの、一つずつ用意しております。提案経緯としては、オンライン試合マニュアルがありますが、引き継いでいない部分があることが報告されており、そのため、提案に基づいて対面試合マニュアルを作成する流れとなりました。時間をおいてからお話できたらと思っています。現時点では採択するかしないかを決めたいです。またこの対面試合マニュアルは都学連主催の大会のみの適応を想定しています。定期戦、練習試合は形式が異なるため、リーグ戦と新人戦のみ適用したいです。内容は一読してください。30分ほど読む時間を設けます。質問があることは最後に受け付けます。お互い男子と女子について目を通して頂ければと思います。ここから周りとは相談しながら30分間話し合ってください。」

「それでは、男子部版の方より、質疑応答を開始いたします。」

・質疑応答

（慶應義塾大学 宮脇さん）

宮脇 「はじめにp7を参照、整列の仕方について師範席側を向くのでしょうか。中央を境にして選手同士が向き合うのか。三つ巴の際の集合の向きについてお聞きしたいです。」

南嶋 「1対1の試合の場合、主審がいて的側に並ぶ大学控え側に並ぶ大学がいるということを想定しております。一般的なこのような試合の場合は中央を向き合うこととなります。なので、三つ巴や四つ巴の際は師範席側を向くということで追記させていただきます。」

宮脇 「p7を参照、⑥的見の(2)、持ち的の確認について、男子部と女子部の競技方式において差異があると考えます。的見の際に女子部は主審に直接指示、男子部は上位校の主将に選手が指示してから主将が主審に指示を出しているが学連側の見解はどうでしょうか。」

（次頁に続く）

南嶋 「男子部で知っている分については、持ち的の確認をしている大学がいて、その持ち的の確認をしている大学の主将が一旦修正内容を選手から聞いて、主将が主審に伝えてそれを主審が的場に伝えるということで、今言ったことが一般的なのではないのでしょうか。女子部に関しての詳細は女子役員に任せたところであります。」

- 宮脇 「 p8、p11 を参照、三つ巴で八人立を行う際、8 的を立てる時同時に入場するやり方がわかりにくいです。3 校での 8 人立を経験していないためです。」
- 南嶋 「 自身の経験則を踏まえてお話させていただくと、今年の順位決定戦で対面の三つ巴が発生しました。A 大学一の立、二の立の 8 人 1 チームで入場。B 大学一の立、二の立の 8 人 1 チームで入場。C 大学一の立、二の立の 8 人 1 チームで入場。よって大学ごとに引くということになります。P.11 原則の数 8 的というものは整合性が取れると考えます。」
- 宮脇 「 p4 を参照、タイムスケジュールについてですが、付け矢の時間について、コロナ前より付け矢時間が短い？ 1 時間にされた（短縮された）経緯についてお聞きしたいです。短縮された理由、必要性も併せて教えていただきたいです。」
- 南嶋 「 コロナ禍前における対面のリーグ戦の付け矢は 2 時間以上ありました。それに比べて今は 1 時間 5 分。これはコロナ禍入る前に総会もしくは研修会にて短縮が可決されました。提案された理由としては単純に長いということと、付け矢立を行っても 2 時間あるともものすごく時間が余ってしまい、待ち時間が発生していたと当時の加盟校から意見があったためです。」
- 宮脇 「 30 分間話し合ってきたことを共有しますと、付け矢立を行うのには時間がかかります。立順を決めたり選手が準備をしたり、付け矢立の前に自由付けを行う必要もある。選手十数名連れてきた状態でだと各校 4 的 1 時間だと付け矢立ができません。以上の点から提案をさせていただきますと、最低限 90 分欲しいです。出来れば 2 時間ほしいです。」
- 南嶋 「 付け矢立とは選手選考において 1 立引いて調子を見るものですが、学連として推奨したものではなく自然に文化として発達したものです。付け矢立をやりたいという意見は検討いたします。」
- 南嶋 「 そうしましたら、お伺いしたいことがあります。単純なアンケートとして、付け矢立を行っていた記録があったり、付け矢立を行いたい大学の方はどれくらいいらっしゃいますか？ 挙手にてお願いいたします。」（挙手 約 15 大学）
- 南嶋 「 付け矢立をやっていた(る)大学は 15 大学ぐらいで、ある程度リーグに偏りがあるように思われます。こちらに関しては調整できればと思います。一旦、女子部の話をしてから戻ってきたいと思います。他に男子のマニュアルに関してご質問ある方いらっしゃいますか？」

(工学院大学 寛田さん)

寛田 「男子マニュアル p12 参照、三つ巴の先攻後攻を決めるのは矢振りなのか、他の方法なのかをお聞きしたいです。」

南嶋 「三つ巴戦に関しても矢振りで行います。主審副審の方には矢を3本と矢筒を持ってきていただきます。甲矢を1本、乙矢を2本用意する。最初に3校で引いて甲矢を引いたら先攻、二回目に2校で引いて甲矢を引いたら中攻、乙矢で後攻となります。矢振り以外の公正な決め方の提案がないため、基本的に矢振りでお願いしております。」

南嶋 「女子部の方の質疑応答を開始します。現時点でご指摘いただいているタイムスケジュールに関しまして、訂正させていただきます。p3 参照、女子部のタイムスケジュールでの付け矢時間は正しくは40分間です。9時40分開始、10時20分終了となります。大変申し訳ございません。他に質問ある方はいらっしゃいますか？」

(慶應義塾大学 平井さん)

平井 「p7 参照、三校戦の場合は2校ずつ引くことになりますか？以前OGの方から三つ巴の場合はA,B大学が二校同時入場し、続いてB,C大学、A,C大学が二校同時入場すると聞きしました。」

南嶋 「三つ巴戦に関しては色々やり方があるように思われますが、今年三つ巴戦を行った大学の方はいらっしゃいますか？またどのような行なったかお聞かせ下さい。」

(早稲田大学 亀卦川さん)

亀卦川 「今年のI部II部の入れ替え戦が三つ巴で、マニュアルの通りに1校ずつ一立ずつ行いました。」

南嶋 「今年の三つ巴戦はI部II部の入れ替え戦のみだと思われま。この件に関しては過去の委員長にやり方を確認いたします。時間の短縮や道場のキャパシティー（同時入場なら坐射で8人立ができる広さ）等を考慮してこの件は明確にしていきたいと思いま。AB→CA…と二立ずつ行うこと、各大学一立ずつ行うことで意見が分かれていると思いま。どちらがいいか議決を取りたいと思いま。5分間話し合う時間を設けたいと思いま。何か質問等ございまるか。」

(上智大学 山田さん)

山田 「 8人立を座射でできる道場のアンケートを取った方がよいのではないのでしょうか。」

南嶋 「 道場アンケートとして毎年とっていて、割り振り先の道場に関しては収集した情報を基に判断しております。確認の為、8人坐射ができる大学の方はどれくらいいらっしゃいますか？貸せる貸せないは別として挙手の方お願いします。」

(挙手 約15大学)

(大正大学 杉山さん)

杉山 「 仮に二大学同時入場が可決された場合、坐射で八人立ができる道場が確保できなければ不戦勝ということですか。」

南嶋 「 順位決定戦などに関しては今年のように対面で行いたいと思っております。その際に使用する道場を借りるのは我々学連側の業務になります。」

南嶋 「5分経ちました。議決の前に質問ある方はいらっしゃいますか」

16:07 **議決1：女子部三つ巴戦において二大学同時入場(2立ずつ)か、一大学毎(1立ずつ)で入るか**

同時入場→12校 一大学毎→30数校

南嶋 「 今後は三つ巴において一大学毎に入場にさせていただきます。4的でそれぞれ入るというやり方で今後は一律に行います。ただし、帯同する部員もいるので貸し出せる道場の中で広いものを手配いたします。」

(東京工業大学 細井さん)

細井 「 三つ巴の時の矢振りについてです。女子マニュアル p.9 では矢振りの矢が先攻中攻後攻明記された矢を用意すると書いてあり男子マニュアルと異なりますが、どちらが正しいのでしょうか？」

南嶋 「 申し訳ございません。確認取れましたが、女子部に書いてあることが違いました。男子部の方であっております。訂正させていただきます。」

細井 「男子マニュアル p.10にもそう書いてあります。」

南嶋 「訂正いたします。」

(学習院大学 道川さん)

道川 「 p7 参照、2校戦において毎回 A 大学 B 大学、A 大学 B 大学と入っていたが、入れ替えることに理由はありますか？」

南嶋 「 去年のオンライン開催では A 大学 B 大学、A 大学 B 大学と決められていたが、お互いに巻藁の時間をまとめてとれるようにこういう位置決めにしておりました。男子部マニュアル p8 の 2 校戦の場合を参照してもらいますと、入れ替えるとありまして、こちらを真似たものになります。」

道川 「 男子は二立あるため同じ人が引くことはないが、女子の場合は立順の入れ替えを行うと連続で引くことになります。また片方の大学が巻藁時間を長く取れて有利不利が出ます。その点は男女で同じにするべきではないと思います。」

南嶋 「 確かにそういう事態や選手変更にかんするミスなどが発生すると思います。ではこの場で今後の方針を決めたいので、採択させていただきます。5分ほど時間を設けます。」

南嶋 「 5分経ちました。採択に関する議決、対面マニュアルに書いてある通り、A 大学 B 大学、B 大学 A 大学、A 大学 B 大学、B 大学 A 大学…と連続して入るやり方か、A 大学 B 大学、A 大学 B 大学…と交互に入るやり方かどちらかに挙手をお願いします。」

16:21 議決 2：二校戦四的において、初立先攻後攻の決定後、立の順番を変更するか、変更しないか。

変更する→1校 変更しない(交互に行射を行う)→多数

南嶋 「 挙手の結果、先程提案していただいた A 大学 B 大学、A 大学 B 大学と 交互に行射する というやり方でいきたいとおもいます。質問も無いようですので採択結果を後日対面マニュアルに反映させていただきます。」

(慶應義塾大学 宮脇さん)

宮脇 「先ほどの付け矢時間の件は、後日採択の必要がありますか？」

南嶋 「 規約として付け矢時間に関して明記がないので、議決によって決めることができるものと解釈します。他に時間について提案がありますか」

宮脇 「90分以外に120分という案が他校との協議で出ました。」

南嶋 「 現状、65分、90分、120分という3択があっております。質問等ありますか？議決内容の確認ですが、男子部マニュアルに書いてあるタイムスケジュールについて、現状付け矢の時間が65分となっております。しかし付け矢立ちといった流れを踏むため

の時間をもう少し設けてほしいという意見があり、90分、120分という案があがりました。大学間での話し合いの時間を設けます。」

(早稲田大学 東海枝さん)

東海枝 「あくまでマニュアルであることから両校、立ち合い、学連の了承が取れば延長できるのでしょうか？」

南嶋 「一律とします。リーグ戦は選抜大会の選考も兼ねているため有利不利が出てしまうためです。」

16:30 議決3：男子部附け矢時間を65分、90分、120分の内どれにするか。

65分→22校 90分→24校 120分→0校

南嶋 「過半数の採択のため90分にさせていただきます。附け矢立を必ずやれというわけではありません。他に男子部女子部マニュアルに関して質問ありますか。」

(東京都立大学 金子さん)

金子 「附け矢終了から試合開始まで15分あるが、11時25分開始と後ろ倒しになるのでしょうか？」

南嶋 「そうなります。」

南嶋 「こちらをもとに修正版を掲載いたします。よろしくお願いいたします。一度休憩とさせていただきます。」

16:45 再開

南嶋 「三つ巴の際に附け矢時間は変わらないのか、という質問が休憩中にありました。一律で時間を設けている理由として、各試合での附け矢時間の公平性を期す為となっております。」

(慶應義塾大学 宮脇さん)

宮脇 「三つ巴の附け矢の際の的の数はいくつか」

南嶋 「12的立てたいがそれができる道場は少ない。もし12的立てられれば現行のまま、出来なければどうするかに関して意見を伺いたいです。なお、一大学当たりには使える的数に比例させて延長させることは可能と考えます。」

(早稲田大学 亀卦川さん)

亀卦川 「延長は男子だけの話でしょうか」

南嶋 「男女共通の話になります」

上智 「これはオンラインの場合もそうか、オンラインでは各校好きな数のできるのでそれはできるのでしょうか」

南嶋 「オンライン試合に関しては適応しない方針です。」

16:58 **議決 4 : 三つ巴の付け矢時間の延長の可否**

賛成→44校 採択

日大 「マニュアルには上位校が的見してから下位校がやるとあるが、本校は両校同時に相談して指示をする。これはマニュアル通りにこれからはやるべきでしょうか」

南嶋 「この場で議決取って決定しましょう。」

17:01 **議決 5 : 的見において、上位校下位校別々か、一緒か**

全会一致で同時に行うことに決定

(慶應義塾大学 宮脇さん)

宮脇 「男子部の観点からの質問ですが、現行のものでは手間なので下位校→上位校の順でやればいいのではないのでしょうか。」

南嶋 「上位校が有利になるようにずらされたら下位校にとって不公平になってしまう為、必ずその場合も下位校の確認が必要となります。」

○議題⑩「全関東大会改革案」について

南嶋 「 続いて全関東学生弓道選手権大会に関して、案①持続可能かつ正常な大会運営に向けてお話していきます。最近広告費等を除いて赤字が続いているため、これからも日本武道館を続けて使用するには繰越金が減ってしまいます。

団体戦 15000 円→25000 円

個人戦 1500 円→2000 円

OB 戦 15000 円→25000 円

に値上げできないかと考えております。経緯としましては、近年の物価上昇、グラフの通り（資料参照）支出の増加が激しいため、値上げさせて頂きたいという次第です。また、案②全関東女子団体の出場人数についてですが、先ほどのジェンダーの話にもありましたように以前は弓道人口について男女比が2：1となっていました。近年はほぼ1：1とほぼ同じ人数となっております。しかし立の人数の割合に関しては今も2：1となっております。先ほどの女子部記録会の話の通り、近年のジェンダー問題からも人数の変更が見込まれます。ここで考えたいことは三人立ちである意味はあるのかということです。これらを次のブロック別討論会にて各大学間で話し合っていたきたいと思います。所属リーグに関わらず幅広い意見交換を行う意見交換を目的として討論会を行います。現状の男女間の競技方式、競技人数の差の是正に向けての具体的なアプローチの見解・方針について話し合っています。」

17:25 全体討論 再開

南嶋 「 これより再開いたします。来年からいきなり改訂するというわけではなく、来年以降の方針として中長期的な方向性を決めていこうということになります。今回はあまり時間がないので、一度皆さん大学に持ち帰っていただき、それぞれ考えを温めていただき、今後の定時総会等で話題を挙げていければ良いと考えておりますのでよろしく願いいたします。」

南嶋 「 続きましてお知らせになりますが、お手元の資料をご覧ください。メールコミュニケーションズ様よりご案内があります。こちらは就活支援等手掛けてらっしゃる企業様となっております。もし興味がある大学の方いらっしゃいましたら年内を目途にご連絡いただくと幸いです。こちらに関しましては後日詳細をお送りします。」

南嶋 「 今年度のオープンチャットについては後日メーリスでも配布予定です。ご参加ください。所属大学を氏名欄にご記入ください。（例：○○大学 △△）」

南嶋 「令和5年度リーグ戦・女子部リーグ戦後アンケートについて、頂いたご意見を基にお話しさせていただきます。訂正が多い、訂正が分かりにくいという点ご指摘を頂きました。今後はより分かりやすく大々的に示すようにいたします。

大会の名前が分かりにくいという点もご指摘いただきました。そこで提案させていただくのが、名前の変更になります。現状「令和五年度リーグ戦・女子部リーグ戦」、「令和五年度新人戦・女子部新人戦」となっており、元号が一般の元号とずれています。また、元号がずれている為、大会回数を数えることも難しくなっております。提案としては「第70期リーグ戦・女子部リーグ戦」、「第70期令和五年度新人戦・女子部新人戦」と、東京都学生弓道連盟の設立時期から換算して、学連役員の数によって大会回数を定めることに変更するという事です。全関東・百射会・女子部記録会には適用しません。安直であるので他に案がある方はいらっしゃいますか。反対意見がないようでしたらこちらで行いたいと思います。来年9月より70期が始まるというイメージです。資料に関してもこちらで変更させていただきます。（以下資料参照）」

南嶋 「また、試合結果の公表が遅いとの意見も頂きました。大変申し訳ございません。ただ、正確性を重んじた結果であることをご理解いただきたく思います。学連の方で公表までに二重三重とチェックを入れております。その過程で公表が遅くなってしまう。今年度に関してはそのチェックの甲斐あり大きなミスなく公表できたと思っております。何卒ご了承ください。なるべく早く公表するようにはいたします。」

南嶋 「今年度のリーグ戦に関しては、オープンチャットを導入いたしました。こちらはおおむね好評でした。今後もしできればやっていきたいと思いますが、いかんせん作るチャットの数が多いため不手際ありましたら申し訳ございません。よくあった問題としては、当事者が参加するのが遅いというものがありません。こちらは試合〇日前までには入室するようにと明記するようにいたします。もし入ってこなかった人がいた場合は連絡いただければ対応いたします。」

南嶋 「オンライン試合に関しては、特に立合担当大学の理解不足や学連側の資料の不明瞭さが重なり、問題が生じた事例がありました。立合を行う皆さまには、資料の熟読を徹底していただきますようお願いいたします。学連側もさらに分かりやすい資料の作成に尽力いたします。各部員に共有の程お願いいたします。」

南嶋 「対面試合に関するトラブルについて、懲戒処分を下した事例もありました。2件です。詳細は割愛いたします。先ほど話題に上がった恣意的な処分とならないよう、今後このような問題が発生した場合には総会

などを経て処分を決定することになるかと思います。」

南嶋 「オンライン試合で開閉会式は行わないのか、という意見については、学連としての見解は持ちません。各校の判断で構いません。」

南嶋 「オンライン試合において矢声はありか、という意見については、矢声禁止とさせていただきます。借用道場から禁止されている、もしくは近隣住民からの苦情で矢声を出せないなどの事情がある大学があるかと思えます。一方で自由に矢声を出せる大学もあるという状況で試合を行いますと、矢声による応援の力が勝敗に影響を及ぼす可能性が否めないという点から、一律禁止とさせていただきます。なるべく可能な限りで同一の状況を作りたいと思っておりますので、矢声禁止は周知の程お願いいたします。」

南嶋 「そのほか運営に関する質問はございますか。」

(学習院大学 道川さん)

道川 「根本的な話ですが、試合名称について、男子部がもともとあり、女子部が付随したものということとは思いますが、先ほどジェンダーのこともありましたし、男子部と女子部という名称を男女別にする点に関してはどうでしょうか。」

南嶋 「学連役員内でも話題に上がっている問題です。解決には少々時間がかかるため、何卒ご了承ください。」

(法政大学 佐々木さん)

佐々木 「今年の全関の矢の跳ね返りについて、対策は考えているのでしょうか。」

南嶋 「こちらに関しては、使用させていただいた安土のマット等の物理的な面で不具合がありました。それを踏まえてその後のインカレでは、矢の跳ね返りがあまり起きなかったため問題の解決には次第に近づけているのだと考えています。また、設営をお願いする会社自体の問題でもある可能性があるため会社選定から考え直しているところです。」

(駒澤大学 倉瀧さん)

倉瀧 「対面試合マニュアルの適用範囲について、都学主催の大会のみとありますが、リーグ特有の要素を取り除けば大学同士の試合でも利用してもよいのでしょうか。」

南嶋 「使っていただいて構いません。あくまで都学主催の大会のとい

う制限です。インカレなどに別の大会に関してはそれぞれ別規定
ございますので混同なさないようご注意ください。全日委員長
井上より補足です。」

井上 「 インカレ個人予選が全日主催としてのオンライン試合ではある
かと思いますが、そちらのマニュアルは別途作成いたしますので
そちらに従ってください。王座の対面のルールは定まっております。
すでに 60 回大会の選手監督必携に記載されておりますので
そちらに従っていただくこととなります。」

南嶋 「 また、定時総会でもお話いたしました但我々は試合運営を行う立場で
ありまして、各大学の道場の管理は管轄外です。大学の道場設備に問題
が生じた際は学連ではなく大学にお問い合わせください。」

○議題⑪ 新年度役員について

南嶋 「 資料ご参照ください。現状、都学・全日両方で学連役員輩出校に偏り
が出ております。加盟校の負担や学連内の意見が偏ったり、幅広い意見
の集約が出来なかったりするためこの現状は適切ではないと考えており
ます。なるべくいろんな大学から役員を集めたいと思っています。よっ
て対策として、加盟校間の負担を平等にすべく、学連役員非派遣校に対
して役員派遣負担金(仮)約 8 万円を課すということを挙げさせていただ
きます。8 万円の根拠としましては、役員一人当たりの価値や役員一人
に対して連盟が負担している負担を計量的に表せるものを考えたときに
役員の年間交通費が挙げられました。南嶋の場合往復約 1000 円、週 2
出勤で月約 8 万円となります。また、全役員の交通費の平均が約 8 万円
となっております。各代 13 人募集するとし、全代異なる大学から役員を
選出したとして 39 校からの役員派遣があるとします。その場合 15 校か
ら役員派遣負担金を徴収することになりますので、126 万円の収入とな
ります。学連構成大学がどの代も変わらないとして、13 大学からの役員
派遣があるとします。その場合 328 万円の収入となります。これらの最
小値最大値はあくまで理論上のものです。平均すると 28 大学から 224
万円を徴収するということとなります。使用用途としましては、事務所
維持費と役員交通費に充てます。事務所維持費は全日と折半で 150 万円
となっております。役員交通費は年額 144 万円となっております。何か
質問等ございますか。」

(慶應義塾大学 宮脇さん)

宮脇 「 役員の派遣に関して役員派遣負担金の8万円さえを払ってしまえば役員を派遣しなくて済むと考える大学が多く出るのはないでしょうか。」

南嶋 「 もちろんそれが起こる可能性はあります。しかしかなり大きめの数字であるため、役員を出した方がいいと判断する大学もあるはずです。また定員を超過した場合面接を行います。面接を受ければ半額になるので、とりあえず参加するだけする大学もあると思います。」

南嶋 「 一応補足ですが、学連役員に持ち回りは存在しません。毎年出しているからと言って必ず合格するとは限りません。もちろん毎年役員派遣に協力してくださっている大学様がいらっしゃることはとてもありがたいことです。」

(日本体育大学 栗原さん)

栗原 「 役員派遣負担金についての質問です。本学は部員が少ない上に部費も集まらないため、まず大会に出られるかもわからない。そのうえで役員を派遣とか、負担金が大きいと部の運営上厳しいものがあります。」

南嶋 「 もう一つの案として、部員数にあった金額を徴収する案があります。具体的な数字を挙げることは難しいのですが、人数によって負担を均一にするために、10人以下なら何万円、10人以上20人以下なら何万円と徴収金額を変えろというものです。どちらがいいかに関してはこの場で決められたらと思う次第です。」

(東京外国語大学 高村さん)

高村 「 部の運営が手一杯です。そもそも大会に出られない可能性もあり、強い大学との格差がさらに広がるのではないかと考えますので、部員別に徴収金額を変えろという検討はぜひともお願いしたいです。」

(東京都立大学 金子さん)

金子 「 金額の設定の仕方について、学連役員一人について交通費で表していますが、仕事時間としてプライベートが削られることに対して役員に別の形として返すということはお考えですか。」

南嶋 「 交通費以外で目に見える形で配れるものとしては給料という形になってしまいますが、それは絶対にしてはいけないことで、金銭的などところで援助はしづらいです。都学連でも遠征があるのですが、遠征期間の交通費・宿泊費・諸々の生活費の援助はできます。」

(上智大学 山口さん)

山口 「 事務所維持費についてですが、事務所家賃 300 万円との記載について、役員派遣負担金から支払うとのことですが、元はどこから支払っていたのでしょうか。」

南嶋 「 部員登録費等、都学連に払われているお金で出させていたいただいています。」

山口 「 決算書を配布した方がよいのではないのでしょうか。」

南嶋 「 8月の定時総会で毎年配布させていただいております。また、本連盟 HP で公開されております。」

(東京工業大学 小林)

小林 「 8万円という学連役員の年額平均について、不透明な部分があるのではないのでしょうか。」

南嶋 「 スライドの資料はあくまで一例となっております。先ほども申し上げましたが、東京以外から来ている人もいれば、新宿に住んでいる人もいまして、平均を取ると大体8万円となっております。具体的な数字は決算書とともに公開する予定です。」

小林 「 定期代を含めると交通費はもっと安くなるのではないのでしょうか。8万円という額に対する正当性というものをきちんと加盟校にも説明していただけないと納得は出来ないのではありませんか。」

南嶋 「 定期区間は除いてあります。年間交通費等は不透明な部分も多いので後日説明いたします。年額についての根拠については保留とさせていただき、本日根本的にやりたいことは各大学で役員派遣における負担を均一にする制度を作るという事です。役員派遣負担金の徴収は方針として紹介させていただきました。総会なしにいきなり徴収するという事はないのでご安心いただきたいのですが、導入するかどうかについての方向性は決めたいと思います。ご意見ある方いらっしゃいますか。10分程度時間を設けます。」

井上 「 補足としてまず他地区の状況をお知らせいたします。昨日の関西の委員会では、同様の制度(1万円)が可決されています。都学だけが負担を強いられているわけではありません。役員を出すことが負担であることは理解できます。しかし、学連役員でも選手として活躍している人もいます(今年インカレ大会女子個人2位)。学連に入ったからといって選手生命が断たれるわけでは必ずしもありません。学連としても学連の仕事に積極的に参加したいと思ってもらえるような周知をしていかなければいけないと考

えております。金額はともかく制度自体はなんとしても作らないとやっていけないと考えます。役員派遣校が決まっていたのに直前になって断られ、結果東大から2年連続2名ずつ派遣するという事態も生じております。このような状況を踏まえての提案であると思います。学生弓道の為にご協力願いたいです。」

南嶋 「ただ今、話があったと思うが8万円は確かに大きいとおもいます。ただし我々としても毎年役員募集が苦しい状況です。現状が続くいてしまうと運営自体が厳しくなってしまう。是非ご協力をお願いいたします。」

(東京外国語大学 高村さん)

高村 「このあと方向性が固まったのちに、再度金額については議決を取るのでしょうか。」

南嶋 「もちろん金額を決めずに議決を取っているので、金額については一度整理したのち改めて確認をとります。」

議決：役員派遣負担金制度を導入するかどうか（金額如何に関わらず）

南嶋 「ただいまのやり取りで意見が変わった方いるかと思っておりますのでもう一度採決を取ります。挙手お願いいたします。」

賛成→46 反対→6

南嶋 「集計の結果、**賛成多数**のため議決されました。先ほどの通り金額、根拠等は再度報告、議決を取らせていただきます。」

○その他質問

(法政大学 佐々木さん)

佐々木 「全関のシードの試射について。第53回では試射を行わないとありますが、そうするとシードをとったほうが不利になるのではないかと思います。試射の本数を一手にするか、トーナメントに上がる出場校を8校増やすか減らすかしてシード自体を無くすかどうかかにしてほしいのですが、できるでしょうか。」

南嶋 「シードとは結果的に他と比べて強いところに与えられる権利となります。学連役員の見解としては今年試験的に死者を実施したことを踏まえ、試射は絶対になんもない方がよいと考えております。強いと結果で示された大学であるので、試射を行うという根拠にならないと思っております。」

井上 「今後、全日の大会についてはシード校に対し試射の機会を与えるということはないのでご了承ください。シード校は1回戦突破できる強さがあると示された大学と解釈しております。試射でシ

ード校にさらに特権を与えるのかということで、全日として全日主催の大会でシード校の試射は認めないということを明言させていただきます。」

南嶋 「 都学でも同じ意見となります。」

佐々木 「 シードが特権ならシードを辞退し、的中如何に関わらず1回戦に参加する事は可能でしょうか。」

井上 「 特権とは言葉が悪かったのですが、シードは権利ではなく特権的な地位ということです。つまり1回戦をする必要がないということですので原則辞退は出来ません。」

佐々木 「 私個人の考えですけど、一回戦を突破することより一回でも多くその会場で引けることが自分的にうれしいのですが、調整はしていただけないでしょうか。」

井上 「 そこを言い始めると、様々な点で平等を期さなければならなりません。例えばインカレ。インカレ会場を東京神戸名古屋と全国3か所を持ち回りに行う意図として、例えば東京開催なら近隣の大学は朝まで附け矢ができます。でも遠くから来る大学は前日入りの上一度も弓を引くことなく試合に出ることになります。そのような状況を加味しながらできる限りの平等を作るために一定の線引きは必要と考えます。完全な平等の実現は不可能だが平等を目指すならシード校の試射はなくすべきというのが学連の意見です。」

(青山学院大学 貞本さん)

貞本 「 新人戦の日程について、昨年度の予備日は金曜日と月曜日で確保するように言われましたが、今年度もそういう促しをするのかお聞きしたいです。」

南嶋 「 そうですね。昨年はそういった内容で日程をずらしたこともありましたが、今年はまだ明言できないのでこの場での発言は控えさせていただきます。1月中に要項を出しますですのでそちらを参照のもと道場予約等していただければと思います。」

(慶應義塾大学 宮脇さん)

宮脇 「 学連委員の運営について質問させていただきます。例年8月末までの任期で9月から新役員による運営が始まるとのことだが、1月から選定するとありました。新二年の選定が早すぎて弓道に専念する時間が少ないのではないかと思います。1月から9月までの半年の期間は何をしているのでしょうか。」

南嶋 「 1月というところから話しますと、今年面接をやる予定で

す。12月から1月にかけてはどの大学から役員を派遣していただくかを決めます。1月に面接を通して役員の選定を行い3月の中旬に役員が確定します。4月の新年度から最初の方はオリエンテーションなど、役員という名称は就かないが学連役員の色々な業務をします。その辺りから系列決めが始まります。そこから系列の仕事の下積みが9月まであります。百射会や全関、インカレの運営等です。」

井上 「 補足として、全日も同じ流れとなります。外向きは9月に役員になりますが、9月から学連に入ってもすぐに仕事をできるわけではないので、大会等になれるために4月から役員としての仕事に専任していただきます。備品づくりなどです。」

(桜美林大学 薄井さん)

薄井 「 全関のシードについてです。インカレはその日に予選があるから引けているが、全関は予選が別日にあります。それでもシードは試射なしでしょうか。」

南嶋 「なしとなります。」

薄井 「 質問3の新人戦の開催時期について回答がないがそちらについてどうお考えでしょうか。」

南嶋 「 なぜ新人戦を4月にやらないのかという質問でした。その年のリーグに出た選手は新人戦に出られないという意見を踏まえてのものでした。新人戦はリーグに出られなかった人への試合出場機会を設けているということになります。したがって大学に入って最初の試合という意味での新人戦ではありませんので、開催期間も3月ということになります。」

南嶋 「 全体で聞きづらいことに関しては個別に承りますが、他に質問など泣ければ、本日はこれにて閉会とさせていただきます。長い時間お付き合いいただきありがとうございました。」

以上